

資料 2

令和5年11月22日
企画調整局

北九州市基本計画 素案

北九州市基本計画 素案

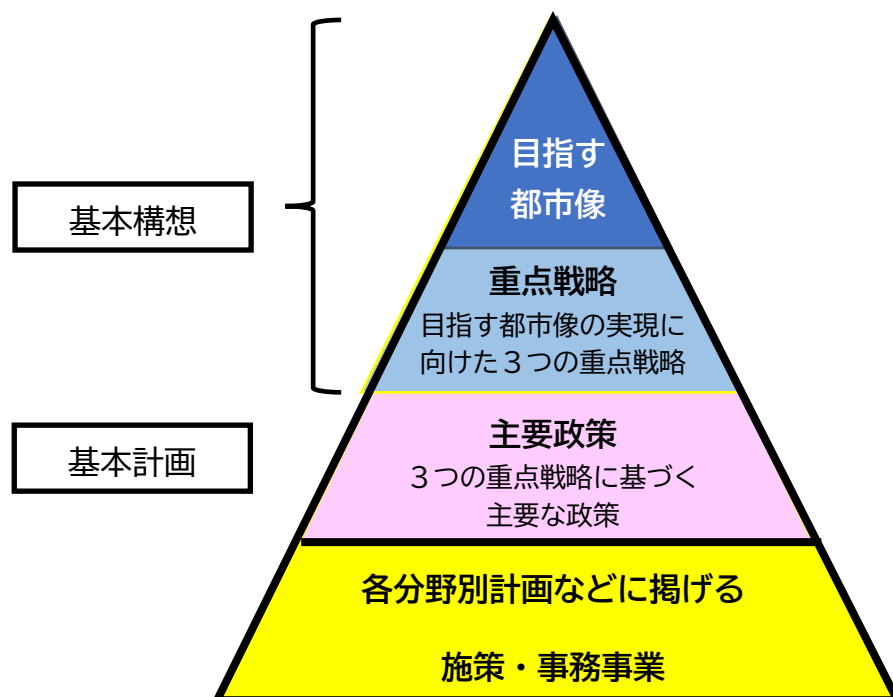
第1章 計画の策定にあたって	2～4
1 計画の構成	2
2 計画の期間	2
3 計画の見直し	2
4 計画の推進体制	3
5 計画と地方版総合戦略の関係	3
6 市政変革による基盤づくり	4
第2章 「稼げるまち」の実現	
～人も企業も潜在力を開花できるまち～	5
第3章 「彩りあるまち」の実現	
～輝く個性と楽しさがあふれるまち～	8
第4章 「安らぐまち」の実現	
～誰もがつながるアットホームなまち～	10
第5章 人口増に向けた道筋	12
第6章 主要な成果指標	14
第7章 7つの個性が輝くまちづくり	16～29
1 門司区	16
2 小倉北区	18
3 小倉南区	20
4 若松区	22
5 八幡東区	24
6 八幡西区	26
7 戸畑区	28
【参考】北九州市の人口の現状と将来見通し	30～34
【参考】これまでいただいた主な意見	35～37

第1章 計画の策定にあたって

1 計画の構成

基本計画は、今後の北九州市のまちづくりの方向性を明らかにした基本構想を実現するために、取り組むべき主要政策の体系や方向性をまとめたものです。

また、基本計画に掲げる主要政策は、「(仮称)北九州市産業振興未来戦略」をはじめとする各分野別計画などに基づき、毎年度の予算編成において、選択と集中の考え方のもと、施策や事業として具体化し実施していくこととしています。



2 計画の期間

基本計画の目標年次は、令和22年(2040年)とします。

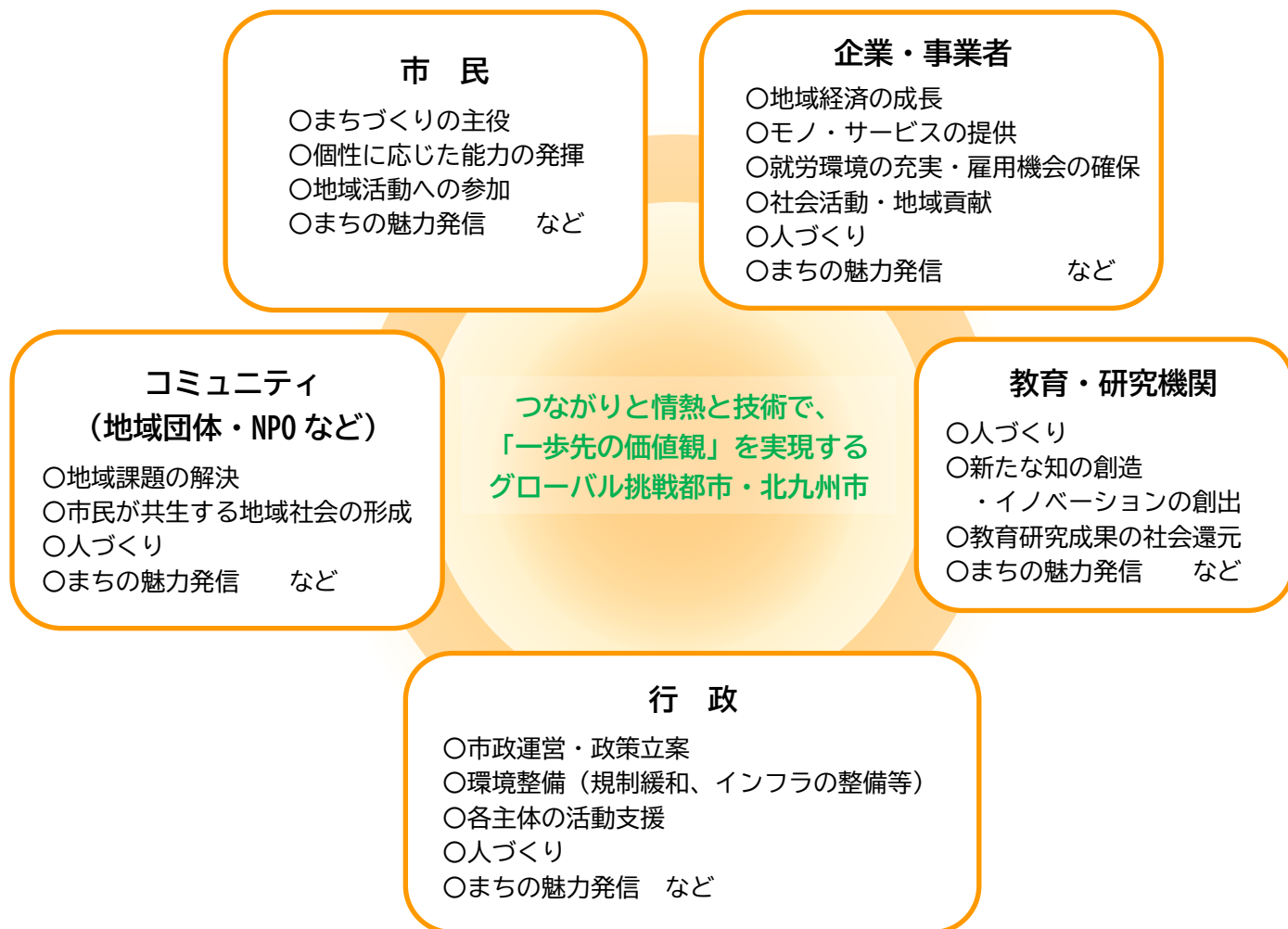
3 計画の見直し

社会経済情勢や市民ニーズの変化、計画の進捗状況などに応じて、概ね5年ごとに内容を検証し、適宜、計画の見直しを行うこととします。

4 計画の推進体制

基本計画に掲げる政策を、産学官民などの各主体がそれぞれの役割を果たすとともに、総合力を発揮することで、一丸となって推進します。

< 各主体における役割のイメージ >



5 計画と地方版総合戦略の関係

人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的に、平成27年（2014年）11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、北九州市では、同法に基づき、令和2年（2020年）3月に地方版総合戦略として「第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しています。

今後の地方創生の取組みの方向性は、この基本計画に掲げる方向性と合致することから、地方版総合戦略は基本計画に包含し、一体的に取り組みます。

6 市政変革による基盤づくり

北九州市では、社会経済上及び財政上の様々な課題に直面しており、基本構想・基本計画に基づいた行財政運営を将来にわたって着実に進めることができる行政組織とするためには、行財政運営のあり方を変革する必要があります。

そのため、「北九州市政変革推進プラン」を令和5年度中に策定し、市政運営そのものの変革に繋げることを目標とした「市政変革」の取組みを進めます。

この「北九州市政変革推進プラン」に基づき、基本構想にベクトルを合わせ、財政状況を改善した上で、経済社会構造の変化に柔軟で機動的に対応し、各局室が自主的・自律的な経営判断と事業実施を行うことができる市役所の体制づくりを行います。この取組みを着実に進めることで、基本構想で示す「目指す都市像」の実現に向けた基盤づくりを行います。

第2章 「稼げるまち」の実現 ～人も企業も潜在力を開花できるまち～

「稼げるまち」の実現にあたっては、産学官の連携により、陸・海・空のネットワークの構築や近隣市町との連携などの「稼げる基盤」を強めていくとともに、若者や女性をはじめとした多様な人材の就業や起業を後押しする「稼げる人」の育成を進めていきます。

また、若者に魅力ある企業の誘致に加えて、民間主導による、企業の魅力や生産性の向上、新規分野のビジネス展開など、「稼げる産業」を創出していきます。

こうした取組みによって、まちの「経済力」を高めることで、「人も企業も潜在力を開花できるまち」を目指していきます。

1 稼げる「基盤」をつくる

(1) 陸・海・空のネットワークの構築

24時間運用で Sea&Air 輸送が可能な海上空港である「北九州空港」の滑走路 3,000メートル化を契機として、国内外からのさらなる物流需要の取り込みや、利便性の高いアクセスの強化、旅客路線ネットワークの拡大に取り組みます。また、都市間の連携強化や、産業集積促進のため「下関北九州道路」の早期整備などによる道路網の充実や、北九州港におけるコンテナ・フェリーなどの物流、カーボンニュートラルポートなどの機能強化にも取り組みます。

(2) メガリージョンの推進

福岡市や下関市、18市町で構成する連携中枢都市圏をはじめ、北部九州エリア全体で大規模都市圏（Greater 北部九州圏）を形成することで、アジアを見据えた産業や人材の集積、観光誘客、都市インフラ整備などを推進します。

(3) 新たな産業用地などの創出

未来産業や物流産業などの企業誘致の受け皿となる新たな産業用地を創出するため、官民連携による先進的な事業手法の導入（規制緩和）や土地利用規制の見直しなどを推進します。

2 稼げる「人」を育む

(1) スタートアップの創出・成長

地域経済の発展や社会課題の解決に向けたイノベーションの担い手となる、スタートアップ企業や人的資源の創出・成長を支援します。また、未来の起業家を育成するため、学生期からチャレンジ精神や創造性・実行力を育むアントレプレナーシップ（起業家）教育を推進します。

(2) 若者のチャレンジへの支援

若者がこのまちで、自らの夢に向かって挑戦・活躍できるよう、学生期において、企業、地域、行政などとの協働により、SDGsの視点も踏まえ、まちづくりや社会課題に主体的に関わる機会を創出します。また、文理問わずすべての学生の基礎的なデジタルスキルの取得・向上や、市内及び市外の新規学卒者や第二新卒者などの若者の地元就職を促進します。

(3) 性別に関わらないキャリア形成の支援

結婚、出産、子育て、介護を迎えても、性別に関わらず個人が希望する形でキャリアの継続、向上を図り、働き続けられる社会を構築するため、仕事の継続や復職の意欲向上に向けた取組み、働き方改革などを推進します。また、地域における子育て支援、在宅生活を支える介護サービスの充実などにより、子育てや介護を担う世代が安心して働ける環境を整備します。

(4) 多様な人材が働くことができる環境の整備

年齢や障害の有無に関わらず、活躍の場を広げ、経済的な自立を促進するため、デジタル分野をはじめとした学び直し（リ・スキリング）や就労情報の提供・マッチング、企業の健康経営などの理解促進や就業環境の整備を促進します。また、外国人材の日本語能力や技能・技術を向上させることで、さらなる活躍や定着につながるよう支援します。

3 稼げる「産業」をつくる

(1) 「バックアップ首都構想」の推進

物流インフラや産業用地などの都市基盤の整備、特区制度の活用や産学官の連携による新技術や新事業の創出などにより、災害時においても日本の社会・経済活動を支えるための拠点として、首都圏などの企業の本社機能やデータセンターなどのバックアップ機能を集積します。また、若者に魅力あるITやエンターテイメントなどの分野について、海外企業も含め誘致に取り組みます。

(2) 成長の芽となる「未来産業」の振興

時代の流れとともに産業構造がめまぐるしく変化する中、レジリエントな（柔軟性がある）強い経済を実現し、まちの活力を向上させるため、ものづくりの「技術力」や学術研究都市の「知的資源」、高度・専門的な「人的資源」を生かしながら、将来の市場拡大が予測される、半導体、次世代自動車、宇宙などの未来産業の育成・集積に取り組みます。

(3) 「(仮称) 北九州グリーンインパクト」の推進

カーボンニュートラルの実現に向けて、環境と経済の好循環によるグリーン成長を先導する世界のリーディング都市を目指し、風力発電関連産業の総合拠点形成、水素などの再生可能エネルギーの供給・利活用拠点化、社会課題に対応した新たなリサイクル事業の創出などの推進により、グリーン産業の更なる発展を図るとともに、再生可能エネルギーやリサイクル機能など様々な環境価値の企業への提供によって国際競争力の強化を図る「(仮称) 北九州グリーンインパクト」を推進します。

(4) 物流拠点構想の推進

北九州市の地理的優位性及び各種輸送モードに対応できる物流基盤を生かして、多種多様な物流ニーズと時代の変化に対応できる街を目指し、陸海空の結節点周辺エリアを中心に物流関連施設の集積を図ることで、物流の活性化、物流関連施設などへの民間投資の呼び込み、新規雇用の創出に取り組みます。

(5) 生産性向上・高付加価値の推進

DXの推進やAIの活用、ロボットの導入などにより、市内企業の生産性向上や高付加価値化を促進するとともに、成長分野などへの事業転換などを支援します。

また、中小企業に対して、人材確保や資金調達、事業承継などできめ細やかな伴走支援に取り組むとともに、農林水産業では、地元生産物のブランド化、安定生産・増産のためのスマート技術の導入などを支援し、担い手不足の解消や所得の向上を目指します。

(6) アジアの社会課題解決への貢献と国際ビジネスの推進

国際技術協力を通じて培ってきたアジア地域とのネットワークを生かし、関連国内企業の市内集積に加えて、海外からの投資を呼び込むため、環境や上下水道分野のインフラ輸出やスタートアップ企業への支援強化などに取り組み、環境国際ビジネスのハブとなる「(仮称) アジア・グリーン共創ハブ構想」を推進します。

また、先進的な介護システムなどをアジア地域に技術移転することで、社会課題の解決に貢献し、国内外から企業や投資を呼び込みます。

さらに、新たなビジネスチャンス創出に向けて、欧州地域なども視野に入れた都市間連携の可能性を探っていきます。

第3章 「彩りあるまち」の実現 ～輝く個性と楽しさがあふれるまち～

「彩りあるまち」の実現にあたっては、民間投資を喚起しながら、魅力的な街並みや生活環境などの「彩りある空間」の整備を進めるとともに、心身に潤いや活力を与える文化芸術・スポーツの振興、観光地の魅力向上などにより、市内外の人々が「彩りある時」を体感できる環境を整備していきます。

また、多様で質の高い教育環境の充実により、子どもたちの個性を尊重し、将来の可能性を引き出して「彩りある人」を育みます。

こうした取組みによって、まちへの「愛着」や「求心力」を高めることで、「輝く個性と楽しさがあふれるまち」を目指していきます。

1 彩りある「空間」をつくる

(1) 都市の魅力を高める「まちなみ」づくり

都市の魅力や価値を向上させるため、小倉地区などを中心に、居心地がよく、出かけたくなる、歩きたくなる「ウォーカブル」なまちづくりを官民連携で推進し、ワクワクする賑わいのある空間を創出します。また、各地域の歴史や自然などの特色を生かした、緑豊かな美しい都市景観の形成を図るほか、集客力や魅力のある商業の振興を推進します。

(2) 選ばれる「住まい環境」づくり

充実した生活利便施設や公共交通などの都市インフラ、医療資源に加え、住環境と近接した豊かな自然を持つ北九州市の強みを生かし、利便性が高い地域における土地利用規制の見直しや積極的な民間投資の呼び込みにより、多様なライフスタイルに応える魅力的な住環境の整備を推進します。また、デジタルの活用と、多様な関係者との連携・協働を通じて、公共交通の利便性・持続可能性・生産性を高めます。

(3) デジタルによる「快適・便利・迅速な環境」づくり

AI・RPAの技術の導入など、DXを推進することにより、行政への相談や申請手続きなどの利便性を向上させるとともに、多様化する市民や企業のニーズにスピーディーに対応できる体制を構築します。

(4) 人や企業を呼び込む「都市の魅力」の発信

戦略的なプロモーションによる、北九州市の持つ多彩な魅力・強みの発信や、「子どもまんなか city」の推進を通じた、良質な子育て環境が整ったまちとしての発信により、都市イメージの向上を図り、シビックプライドの醸成とともに、国内外から人や企業を呼び込みます。

2 彩りある「時」をつくる

(1) 文化芸術やスポーツの振興

生活を健康で心豊かにする文化芸術やスポーツの振興を図るため、多様な文化芸術資源の維持・継承・発展に取り組むとともに、誰もが気軽にスポーツを親しみ楽しめる環境づくりやプロスポーツなどと連携したまちづくりを推進します。また、ICTなどを活用し、これからの時代に対応した多様なライフスタイルや価値観に応える文化芸術やスポーツの振興に取り組めます。

(2) エンターテインメントによる賑わいづくり

多くの人が集まり、賑わい、豊かな時間を創出するため、大型コンサートや大規模スポーツ大会などの誘致を推進するとともに、主催者が多様なイベントを開催しやすい環境づくりにソフト・ハードの両面で取り組めます。また、漫画・アニメ・ゲームなどのポップカルチャーのほか、アーバンスポーツの普及など、若者にとって魅力のあるまちづくりを推進します。

(3) 観光資源の磨き上げや発信の推進

観光コンテンツとしての魅力やシビックプライドの向上のため、各地域の歴史や文化、自然、産業、食などの資源を磨き上げ、組み合わせて発信していきます。また、ブランド力の向上や、国内外からの観光客の呼び込みにつなげるため、規制緩和による新たな観光機能の創出、MICE 誘致の拡大や富裕層向けの宿泊機能の確保など、質の高い観光サービスを提供します。

3 彩りある「人」を育む

(1) グローバル人材や理工系人材の育成に向けた教育の推進

これからの時代に求められるグローバルに活躍できる人材や、DX・GXを牽引する人材を育成するため、子どもの頃からの外国語や国際理解教育、理工系教育などの先進的な教育が受けられる環境づくりを推進します。

(2) 魅力ある新時代の教育機関の誘致

多様で質の高い、個性を生かす教育へのニーズに応えるため、国内外の私立学校やインターナショナルスクールなどの誘致実現に取り組めます。

(3) 将来の可能性を開く教育環境の充実

子どものウェルビーイング実現に向けて、誰一人取り残さない学びや先進的な学びなどにより、「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実に取り組めます。

また、市内大学がそれぞれの強みや特色を生かし、連携を図ることで、日本全体の18歳人口が減少する中でも、学生が持続可能で質の高い教育・研究を享受できる環境づくりを促進します。

第4章 「安らぐまち」の実現 ～誰もがつながるアットホームなまち～

「安らぐまち」の実現にあたっては、防災や防犯のまちづくり、社会インフラの維持など「生活基盤の安心」を支えることをベースに、質の高い福祉や介護、医療などのサービスが提供されるとともに、多様性を認め合いながら、地域のつながりを感じることができる「暮らしの安心」を支えていきます。

また、希望する人が安心して出産し、育児や子どもの成長を社会全体で支える「子どもや子育ての安心」を感じることができる環境を整備していきます。

こうした取組みによって、まちの「住みよさ」を高めることで、「誰もがつながるアットホームなまち」を目指していきます。

1 生活基盤の「安心」を支える

(1) 災害などに強いまちづくりの推進

市民の生命、財産などを守るため、災害に強いコンパクトシティの形成や河川の治水・浸水対策などを図るほか、デジタル技術を活用しながら、地域全体で防災力を高める取組みを推進します。また、消防力のさらなる向上による迅速な消防活動を図るとともに、市民の防災・防火意識の向上を推進します。

(2) 犯罪のないまちづくりの推進

市民の防犯意識を高めるとともに、防犯カメラなどの防犯環境の整備を図ります。また、警察との連携による、暴力団ゼロのまちの実現や多様化する犯罪集団への対策を強化し、安全・安心なまちとしての情報発信のさらなる強化を図ります。

(3) 社会環境やニーズに即した都市基盤・施設の維持

公共施設の集約再配置や予防保全の強化、社会インフラの長寿命化に向けた点検・工事の推進などにより、都市基盤・施設の維持に取り組み、持続可能で安全・安心なまちづくりを進めるとともに、デジタル技術などを活用した維持管理の高度化・効率化を図ります。

また、将来に渡る担い手を確保するなど、持続可能な建設業の実現のもと、地域のインフラ整備やメンテナンスなどに取り組みます。

2 暮らしの「安心」を支える

(1) 多様性を認め合う文化のまちづくり

市民一人ひとりが命の尊さと平和の大切さを認識するとともに、多様性を認め合いすべての人が大切にされていると実感できる社会の実現に向け、人権教育や人権啓発、多文化共生の理解促進などに取り組みます。

(2) 誰もが安心して暮らせる環境づくり

子どもから高齢者まで、誰もが年齢や障害の有無などに関わらず、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができる環境づくりに向けて、デジタル技術を活用しながら、保健・医療・介護・福祉サービスを維持・充実するとともに、市民の移動手段の確保を図ります。

(3) 地域医療提供体制や保健衛生管理体制の充実

デジタル技術も取り入れた救急医療体制の維持など、市民が安心して医療を受けられる体制を確保・充実するほか、新たな感染症拡大による危機に備えた仕組みづくり、食の安全や生活環境の衛生の確保に向けた監視・指導に取り組みます。

(4) 地域におけるコミュニティ活動などの活性化

時代の変化に伴う多様なニーズに対応した地域づくりを進めるため、社会貢献意識が高い若者やNPO、子育て・現役世代なども参加しやすい仕組みに強化します。

(5) 生涯現役に向けた活動などの活性化

生涯を通じて健康でいきいきと心豊かに暮らすことができるよう、市民の健康リテラシーの向上や健診受診・生活習慣の改善などによるヘルスケアを推進します。また、文化芸術・スポーツ活動などの生涯学習や社会参加を促進し、学習活動と地域・ボランティア活動のマッチングも進めます。

3 子ども・子育ての「安心」を支える

(1) 安心して生み育てることのできる環境の整備

市民一人ひとりの結婚、出産、子育ての希望がかなう社会の実現に向けて、保育関係者や地域、NPOなどと行政の連携やデジタル技術の活用により、安心して子どもを生み育てることができる環境を整備します。

(2) 子どもの健やかな成長への支援

子どもの健全な育成に向けて、家庭のみならず、地域、学校、関係機関、行政などが連携・協働し、子どもたちを社会全体で見守り、健やかに育む環境づくりを進めます。

第5章 人口増に向けた道筋

市民が日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模の上に成り立っています。そのため、人口減少が続くことは、将来の社会経済活動に大きな影響を及ぼします。

例えば、人口減少に伴い税収が減少することなどにより、行政サービスや社会インフラの維持が困難になるとともに、小売業、飲食業などの生活関連サービスや公共交通サービスは縮小し、地域コミュニティの機能なども低下します。そして、こうした生活利便性や地域の魅力の低下を通じて、人口減少にさらに拍車がかかる悪循環に陥っていきます。

こうした悪循環を断ち切り、社会経済活動を将来にわたって持続させるためには、人口減少を食い止め、増加への転換に向け、産学官民が一体となって、産業競争力の向上、ハード・ソフト両面の生活環境の充実など、都市の総合力を高めていくことが不可欠です。

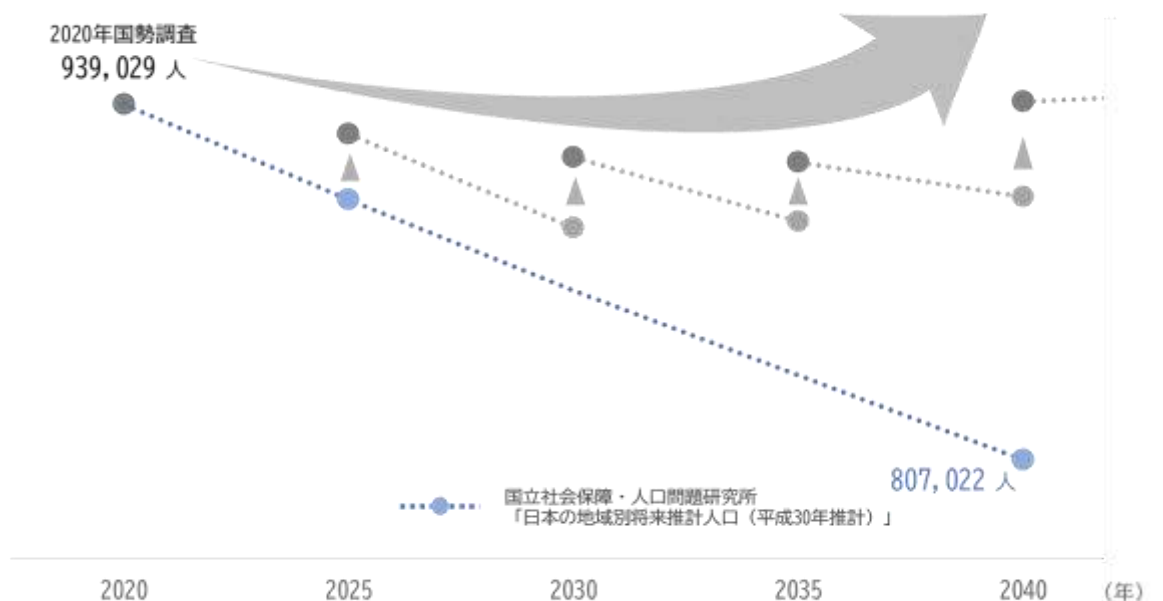
地方において経済活動などの拠点となる主要な都市では、日本全体で人口が減少する中においても、人や企業が集まっています。

そのため、まずは、市内総生産や雇用者報酬の増加などの経済成長の実現、また、都市のイメージアップに取り組み、20代や30代の若い世代を定着させていかなければなりません。

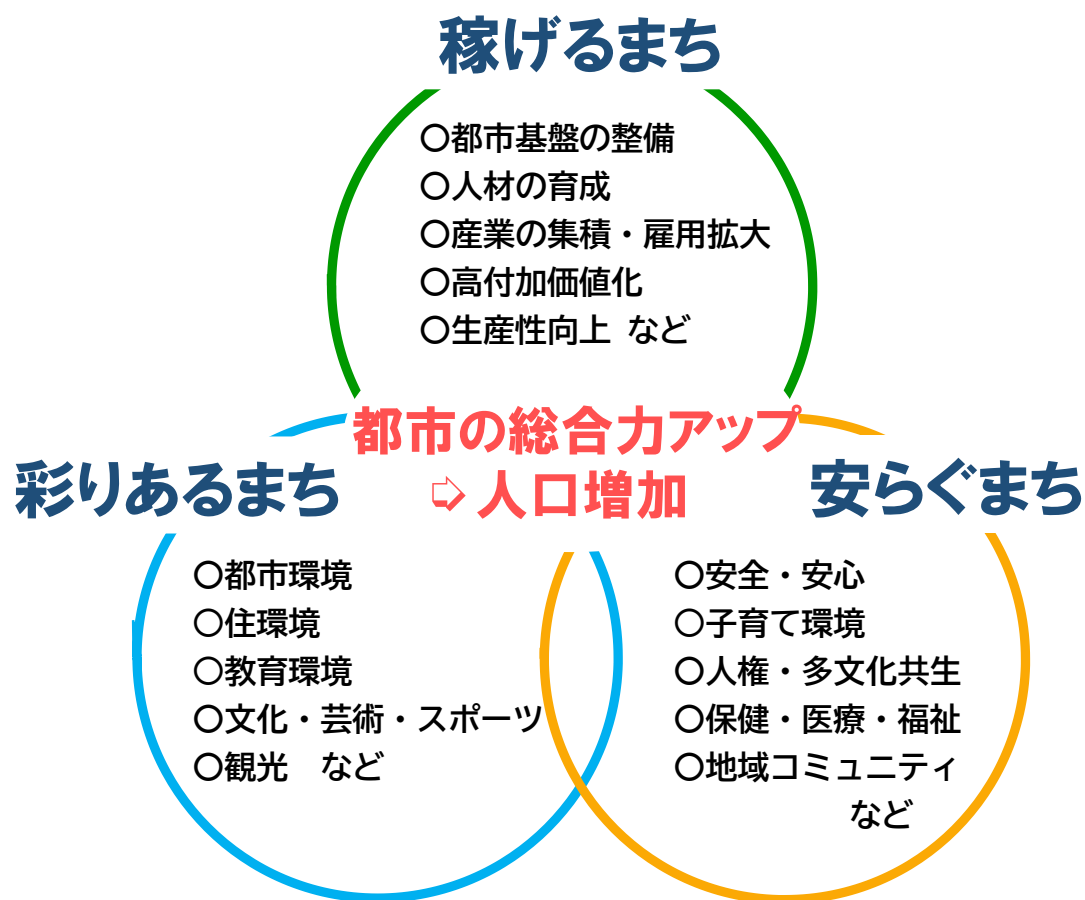
さらに、子育てや教育、福祉、文化、スポーツ、住宅、交通などの生活環境の向上にも取り組み、中長期的な視点で、出生数の増加による自然動態の改善にもつなげていきます。

こうした考えのもと、基本構想に掲げる3つの重点戦略を着実かつ総合的に取り組んでいながら、「成長と幸福」を好循環させることにより、5年毎に国勢調査を踏まえて推計される将来人口を、常に北九州市の人口が上回る歩みを続け、「100万都市復活」に向けた道筋をつくっていきます。

< 将来推計人口を常に上回るイメージ >



< 3つの重点戦略による都市の総合力アップ (=人口増加) のイメージ >



第6章 主要な成果指標

指標名	現状値※ ¹	目標値※ ²	備考
市内総生産額（名目）	3兆6,696億円	4兆円 (2033年度)	—
女性の就業率 (25～44歳)	75.5%	82.0%	国が掲げる目標値の達成を目指す
商業地地価（小倉） ※主要地点の平均地価	580,000円/㎡	871,000円/㎡ (2033年)	現状値の1.5倍を目指す
商業地地価（黒崎） ※主要地点の平均地価	148,000円/㎡	227,000円/㎡ (2033年)	現状地の1.5倍を目指す
将来の夢や目標を持っている子どもの割合	小学生 81.1% 中学生 66.8%	精査中	今後策定する次期教育プランとの整合性を図る
合計特殊出生率	1.46	1.8	国の希望出生率の達成を目指す
健康寿命	男性 71.9歳 女性 75.6歳	男性 76.0歳 女性 77.0歳	政令市1位の水準を目指す
地域活動に参加したことがある市民の割合	50.9%	60%	—

指標名	現状値	目標値	備考
安全なまちと認識している市民の割合	86.0%	90%	—
北九州市に住み続けたいと思う市民の割合	83.8%	90%	—
北九州市への誇りや自信があると答えた市民の割合	55.0%	80%	—
社会動態	▲48人 (2022年)	+1,000人	—
推計人口	916,241人 (2023年10月1日)	将来推計人口を上回る人口	国立社会保障・人口問題研究所が5年ごとに公表する将来推計人口を都度上回る

※ 上記の成果指標以外についても精査中

※1 現状値は、2023年11月20日現在の公表値。
ただし、現状値に括弧書きのある指標を除く。

※2 目標値は、基本計画策定から5年後に達成を目指す数値。
ただし、目標値に括弧書きのある指標を除く。

第7章 7つの個性が輝くまちづくり

1 門司区

門司区は、北九州市の北東部にあり、関門海峡を挟み、対岸に本州を望む九州の玄関口に位置しています。

陸、海の交通の要衝であり、世界各国に航路を持つ国際貿易港として発展しました。現在は大型の臨海産業団地やフェリー基地などがあり、日本有数の物流拠点となっています。



歴史的建造物が数多く残っており、美しい街並みを形成しています。また、三方を海に囲まれ、豊かな自然に恵まれる風光明媚な観光のまちでもあります。

(1) 地域資源・ポテンシャル

①産業

西日本有数の規模を誇る太刀浦コンテナターミナルをはじめ、新門司フェリーターミナル、北九州貨物ターミナル駅、大型臨海産業団地のマリナクロス新門司など、多くの港湾・物流施設が集積し、日本有数の一大物流拠点を形成しています。

②都市機能

公共施設マネジメントにおけるモデルプロジェクトとして、公共施設の集約・再配置に向けた取組みを進めています。

③観光・歴史



古くから国際貿易の拠点として発展してきた門司区では、明治・大正・昭和初期に建てられた多くの歴史的建造物を見ることができます。

特に門司港レトロ地区では、国の重要文化財に指定されている門司港駅や旧門司三井倶楽部のほか、旧門司税関などが往時の繁栄を偲ばせる街並みを形成しています。また、九州

鉄道記念館や関門海峡ミュージアム、観光列車「潮風号」などの観光施設もあり、全国的にも有名な観光名所となっています。

大里地区の門司赤煉瓦プレイスには、大正時代に建造された煉瓦造りの美しい建物が残っており、海岸沿いのレンガ倉庫とあわせて、かつて、三井・三菱財閥と並ぶ大企業だった鈴木商店が築いた一大工業エリアとしての歴史を感じる景観をつくり出しています。



ほかにも、柳の御所や戸上神社、猿喰新田潮抜き穴跡などの文化遺産が数多く残っています。また、壇ノ浦の戦いや巖流島の決闘など、歴史的な戦いの舞台でもありました。

④自然・食

三方を囲む海と風師山や矢筈山などの山々に広がる豊かな緑が、雄大な景色を作り出しています。ほかにも、四季の花咲く白野江植物公園やホテルの生息する井出谷川、松ヶ江北貯水池などがあり、豊かな自然に恵まれています。漁業が盛んな地域でもあり、「豊前海一粒かき」や「豊前本ガニ」、「関門海峡たこ」などは特産品として高い人気があります。

⑤関門連携

関門海峡を挟んで向かい合う北九州市と下関市は、古くから密接な関係を持ちながら一体的な都市圏・経済圏を形成してきました。今後、関門連携の一層の推進により、観光や市民間交流の活性化が期待されます。

(2) まちづくりの方向性

○リゾートの雰囲気が漂い、観光客と地域住民が融合する「観光と生活の場」をまるごと豊富なストックとして捉え、「働く場」や「学ぶ場」との一体化を促進することにより、訪れたい、住んでみたい、住み続けたいまちをつくりたい。

○門司港レトロ地区をはじめとする各地区の歴史や文化、自然、食などの地域資源を地域の方々との協働により磨きあげるとともに、回遊性を高め、下関市との更なる関門連携のもと、関門エリアの価値向上を図ります。

○太刀浦コンテナターミナルや新門司フェリー、RORO ターミナルなどの港湾・物流機能の強化を図るとともに、航路誘致や広域からの集貨に取り組み、物流拠点化を推進します。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・ 日常の景色が本当に素晴らしく、時間がゆっくりと流れていて、家に帰ってくるだけで癒される。このすばらしい景色の中で暮らす価値を大事に思う人が増えてほしい。
- ・ 住む人、観光で来る人、仕事をする人、色々な人が集まる魅力あるまちにしたい。
- ・ 色々な歴史が積み重ねられた地域そのものが一つの教材となっている。まち全体が学びの場となれる可能性を持っている。
- ・ 門司でフィールドワークをする際、地域の方々との顔の見えるコミュニケーションや地元の方々から受けるつながりというものに非常に価値を感じている。
- ・ 下関を挟んだ関門エリアをはじめ、白野江地区や大里地区などの拠点をいかにして便利に 回るか、きっかけづくりも含めて、考える必要がある。
- ・ 魅力を生かした観光と港湾産業の拡大に取り組みれば、働く場所、住む人が増えていく。

2 小倉北区



小倉北区は、長崎街道をはじめとした九州五街道の起点であり、古くから陸上交通の要衝でした。江戸時代における城下町の形成を契機に発展してきたまちで、現在も商業や流通、金融、情報、医療、コンベンションなどの都市機能が集積する「北九州市の顔」となっています。

区を中心部には紫川が流れ、足立山、山田緑地など、緑豊かな自然環境にも恵まれています。また、小倉城をはじめ、様々な歴史・文化・芸術施設が数多くあります。

(1) 地域資源・ポテンシャル

①産業

小倉駅周辺において、コワーキングスペースやシェアオフィスの整備促進により、スタートアップ企業の創出やサテライトオフィスの設置などを誘引し、若年層の雇用の場や新たなビジネスモデルの創出を図っています。

また、民間開発の誘導と企業誘致の促進を重点的に図るため、補助事業の新設・拡充や容積率などの各種規制の緩和を行う取組みを推進しています。

②都市機能

九州第2位の利用客を誇る小倉駅には、新幹線や在来線、モノレールが乗り入れています。さらに、ここから区内外への路線バス網が広がるなど、小倉駅を中心に非常に高い機能を持つ広域の交通ネットワークが形成されています。

また、同駅の北側には、展示場や国際会議場、ホテルなどのMICE施設、球技専用のスタジアムが立地しています。さらに、南側には日本で初めて公道上にアーケードが設置された商店街のほか、オフィス街や繁華街などが広っており、高次の都市機能が集積しています。



③住環境・自然

高い交通機能に加え、雇用機会やアミューズメント機能も充実しており、「住む」「育てる」「働く」「遊ぶ」ための様々な都市機能がコンパクトにまとまっているのが特長です。

また、北九州市のシンボル公園である勝山公園があるほか、足立山や山田緑地、到津の森公園、藍島などの豊かな自然にも容易にアクセスできるなど、住環境としても高い魅力を持っています。

④観光・歴史・文化・食

小倉城や松本清張記念館、北九州芸術劇場、漫画ミュージアム、平和のまちミュージ

アム、TOTO ミュージアムなど、歴史や文化芸術に関する多様な施設が充実しており、市民はもとより、インバウンドをはじめ、国内外から多くの観光客が訪れる人気のスポットとなっています。また、小倉名物「ぬかみそ炊き」や地元の魚介を使った寿司など、魅力的な食文化も観光資源となっています。

北九州市の台所として、長年にわたり市民に親しまれている旦過市場も観光名所の一つとなっており、現在、安全性の確保とさらなる魅力の向上に向け、神嶽川の改修と合わせた再整備を行っています。

400年以上の歴史を持ち、国の重要無形民俗文化財に指定されている小倉祇園太鼓や、市民の心を一つに合わせ多くの人々が楽しめる「わっしょい百万夏まつり」は、北九州市を代表する祭りであり、毎年、多くの人が集まり、小倉のまちを賑わせています。



そのほか、日本夜景遺産に認定された足立公園の夜景や小倉イルミネーションなどの観光資源を活用しながら、行政・地域・民間団体が一体となってイベントの開催や情報の発信を推進しています。

(2) まちづくりの方向性

○高い機能を持つ都市・交通基盤を生かし、オフィスや都市型住宅の集積を促進するとともに、魅力的なエンターテインメントやショップを充実させ、若者やクリエイティブな人材が集まり、北九州市の顔にふさわしい、賑わいと活力がみなぎるまちをつくりま

○小倉地区において、建物1階の民間部分と歩道や公園の公共部分を、官民が連携して一体的でまちに開かれた快適な空間とし、併せて、沿道の魅力を向上することで、ワクワクして歩きたくなるまちなかを創出します。

○歴史や祭り、伝統芸能などの継承・振興を図るとともに、その魅力を資源として賑わいの創出やシビックプライドの醸成を図る、歴史と文化を生かしたまちづくりを推進します。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・住まいや交通、公共サービス、商業施設といった都市に必要な機能がコンパクトに集まっていて、暮らしやすく働きやすいまちというのは小倉北区の重要な強み。
- ・クリエイターやデザイナーなどの若者のチャンスを作っていくことが大事。
- ・小倉は若い人がわくわくするまちになっていないとだめ。
- ・休憩もできて、安全で快適に移動できるようなまちなかの整備が必要。
- ・安心して生活ができて、面白さ、わくわくの溢れるコンパクトなまち、色んな人が新たな楽しみをもって生活できるような、前向きな明るいまちにしたい。
- ・自然や歴史、文化、伝統、食などの魅力を更に向上させ、回遊性を高めることが重要。

3 小倉南区

小倉南区は、市内で人口が2番目に多く、最も面積が大きな区です。山、川、海の多彩な自然と田園が広がり、農林水産業が盛んな一方で、自動車関連産業をはじめとした各種企業が立地しています。また、利便性の高い交通網を背景に物流拠点としての重要性も高まっています。

鉄道やモノレール、高速道路などの社会インフラも充実しており、沿線には良好な住宅地が広がっています。



(1) 地域資源・ポテンシャル

①産業



九州縦貫自動車道や東九州自動車道、北九州都市高速道路、国道10号など、東西南北を結ぶ広域道路ネットワークの結節点となっており、その高い物流機能を背景に、臨空産業団地や北九州空港跡地産業団地などには、自動車産業関連企業が集積しています。

現在、恒見朽網線などの整備により、さらなる物流機能の強化に向けた基盤づくりを進めています。

北九州空港は、九州・中四国で唯一、24時間利用が可能な海上空港であり、将来活用可能な広大な土地を有しています。その特性を生かし、旅客便の誘致に加え、大型貨物機の長距離運航を可能とする滑走路の3,000m化など、物流拠点化に向けた取組みが進んでいます。

②教育・地域

北九州市立大学をはじめ、高度な技術を学ぶ九州職業能力開発大学校（九州ポリテクカレッジ）や北九州工業高等専門学校など、多くの教育機関が集まっています。

また、全国的にも珍しい一歩上をいく子育ての取組みである「プレイセンター」をはじめ、子育てや健康づくりを通して人がつながり、人と地域が育つ素地があります。

③歴史・文化

曾根古墳群などの史跡が多く残されているほか、昔から農業が盛んな地域であったことから、雨乞いや豊作祈願を芸能化した「楽（がく）」や神々に奉納する神楽、盆踊りなどの伝統行事が地域に受け継がれています。また、小倉南区の誕生とともに始まった「まつりみなみ」は、老若男女が楽しめるイベントとして大切な地域交流の場となっています。

④自然・食

北九州国定公園に指定され、日本有数のカルスト台地として有名な平尾台では、春の

野焼き、新緑、秋のすすき野などの四季の変化に加え、鍾乳洞探検（ケイビング）やトレイルランニングなど、他では味わえないアクティビティを楽しむことができます。また、「ソラランド平尾台」には、グランピングやキャンプ場、アスレチックなどの施設が整備されており、様々な体験ができる観光地として人気が高まっています。

ほかにも、カブトガニや渡り鳥などの希少生物の宝庫である曾根干潟や合馬の竹林、菅生の滝、長野緑地など、多様で豊かな自然に恵まれています。

農林水産業も盛んで、全国的に有名な「合馬たけのこ」をはじめ、「小倉牛」や「豊前海一粒かき」などは、北九州市の特産品として人気を集めています。



(2) まちづくりの方向性

○豊かな自然を生かし、四季折々の景観や地域の歴史や文化を感じながら行うウォーキングなどにより、健康づくりや居場所づくりを推進し、元気で生き生きとした生活が楽しめるまちをつくりまします。

○平尾台や曾根干潟などの自然を生かし、希少な体験ができる観光と学びの場の形成を図ります。さらに地元の特産品や伝統、文化の魅力を加え、質の高い地域ブランドを創出することにより、内外のファンを増やし、交流人口や関係人口の増加を図ります。

○各地域の祭りやイベントを通じて、世代を超えて人と人が“つながろう”という想いを力に変えるとともに、2地域居住の促進などにより、関係人口を増やすことで、地域課題の解決を図り、ずっと住んでいたいと思えるまちをつくりまします。

○広域道路網の高い物流機能を生かし、物流業や製造業に係る企業の誘致に取り組みまします。また、北九州空港のゲートウェイ機能を生かし、「国内外との活発な交流を支える空港」と「九州・西中国の物流拠点空港」の実現に向けた取組みを推進まします。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・子どもが五感を使って遊び込める自然豊かな環境があることはものすごい強み。平尾台やカブトガニの居る曾根干潟など、その本質的な魅力と価値を市民はもちろん、日本や世界の人に届けていけば、観光で稼げるまちになる。
- ・海あり、山あり、川ありと自然豊かな地域。都会にあらず、田舎にあらずで、かつ小倉へのアクセスが良いので、ベッドタウンとしては最適な地域だと思う。
- ・まつりみなみのような祭りを大切にしつつ、もっと活気のあるまちになってほしい。
- ・産業を強めたり、空港を生かした国際物流エリアの整備などで雇用を産み出してほしい。北九州空港の活用が小倉南区だけでなく北九州市全体の発展のカギ。

4 若松区



若松区は、かつては筑豊炭田の石炭積出港として栄え、日本の産業発展を支えてきました。現在は高い港湾・物流機能などを背景に、製造業に係る企業が多く立地するとともに、環境産業や再生可能エネルギー産業の集積が進んでいます。

周囲を響灘と洞海湾に囲まれ、中央部は広く緑に覆われるなど、豊かな自然に恵まれており、水産物や農産物の生産が盛んな地域です。

(1) 地域資源・ポテンシャル

①産業

製造業が盛んで、特に響灘地区には、広大な産業用地や充実した港湾施設、アジアへの近接性といった優位性から、多くの企業が立地しています。また、北九州エコタウンには数多くのリサイクル関連産業が集積するとともに、近年は、太陽光や風力、バイオマス発電などの再生可能エネルギーの産業拠点化も進んでいます。

②北九州学術研究都市

区西部にある北九州学術研究都市は、アジアに開かれた学術研究拠点及び新たな産業の創出と技術の高度化を支える知的基盤として開設され、北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学、福岡大学のほか、様々な研究機関などが一つのキャンパスに集積しています。

ここを拠点に、半導体や自動車、ロボット、AI、環境といった様々な分野において、産学の連携による新技術の開発や新たなビジネスの創出のほか、海外の大学との交流や連携、留学生の支援など、グローバルな視点での教育・研究活動が行われています。

③観光・歴史・文化

若松南海岸通りには歴史的な建築物や産業遺産が数多く現存しています。国の重要文化財である若戸大橋とあわせて、日本一の石炭積出港として栄えた名残を感じる美しいまちなみを形成しています。

こうした景色や豊かな自然を背景に、若松が生んだ芥川賞作家である火野葦平の作品「花と龍」をはじめ、数多くの映画のロケが行われています。

また、「五平太まつり」など、地域の歴史や伝承を伝える祭りが盛んな一方、九州ジャズ発祥の地として、ジャズによるまちおこしも行われています。

④自然

玄海国定公園に指定されている若松北海岸には夕日の名所として知られる遠見ヶ鼻や千畳敷のほか、市内で唯一の海水浴場があり、海水浴、釣り、マリンスポーツな



どを楽しむ人たちが賑わっています。さらに周辺には地場製品の販売施設やホテル、グランピング施設に加え、響灘緑地（グリーンパーク）や響灘ビオトープ、気軽に農業体験ができる観光農園などがあり、多様なアクティビティを楽しめます。

そのほか、高塔山は、桜やアジサイ、夜景の名所として知られ、昼夜を問わない人気の観光スポットとなっています。



⑤食



西日本有数の生産量を誇るキャベツをはじめ、ブロッコリー、スイカなどの農産物の生産が盛んです。また、響灘海域は、魚介・海藻類の宝庫となっています。「若松潮風キャベツ」や「若松水切りトマト」、「若松妙見かき」などはブランド化され、その品質を高く評価されています。

ほかにも区内で栽培されたブドウを使ったワインや若松産ホップを使った地ビールを造る活動も行われています。

(2) まちづくりの方向性

○石炭積出港として栄えた歴史や文化、豊かな自然や農水産物、多種多様な産業の集積など、若松ならではの多様な魅力を生かし、シビックプライドの醸成を図るとともに、誰もが住みたい、住み続けたいと実感できるまちをつくります。

○若松北海岸の豊かな自然や周辺の魅力的な食、アクティビティ、高塔山や若松南海岸の夜景などを活用し、市内外から多くの人々が訪れる観光地として、さらなる魅力の向上を図ります。

○物流機能の強化や環境産業などの集積を図るとともに、響灘地区での風力発電関連産業の総合拠点化や水素などの再生可能エネルギーの供給・利活用の拠点化などを推進します。また、半導体や宇宙・次世代自動車などの未来産業の振興に向け、学術研究都市における研究開発強化などに取り組みます。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・豊かな自然やグリーンパーク、海、海岸線、地域住民の結束、若松好きが多いこと、美味しい野菜(トマト・キャベツ)など、いろいろな魅力がある。
- ・北海岸を中心にした自然や海産物、野菜、果物の収穫体験、自然体験を生かしたアクティブな体験型観光地が増えるとよい。
- ・若松北海岸がコートダジュールの様なリゾート地になってほしい。
- ・南海岸には建築遺産が多くあり、観光資源になる十分なポテンシャルがあると感じる。
- ・歴史のある企業や施設がたくさんあり、地元の人同士のつながりが強い。

設の進出により、市内でも最大級の集客力をもつ地域となっています。

そのほか、明治34年(1901年)から続く「まつり起業祭八幡」や北九州市無形民俗文化財である前田祇園山笠などの伝統ある祭りに加え、製鉄のまちの歴史から生まれた八幡ぎょうざや堅パン、皿倉山の伏流水で造る日本酒に代表される多彩なグルメなど、魅力的な地域資源が数多くあります。

⑤自然



皿倉山や河内貯水池、河内藤園、板櫃川などの豊かな自然が身近に広がっています。また、ケーブルカーで気軽に登ることができる皿倉山は、日本新三大夜景都市である北九州市を代表する夜景スポットであり、壮大で美しい夜景を見ることができます。

このほか、高見地区や前田地区の桜並木、河内地区の紅葉など四季折々の美しい景観を身近に楽しむことができます。

(2) まちづくりの方向性

○歴史ある製鉄関連などの企業や先端産業が集積する東田地区と商店街などの市街地が連携して新たなビジネスの創出に挑戦し、ともに発展するまちづくりを推進します。

○夜景の名所である皿倉山や東田地区の各種施設、河内地区の自然など、高い集客力を持つ地域資源の連携を図るとともに、伝統文化に根差した祭りや食の魅力の活用、宿泊機能の強化などにより、訪れた人たちが循環し、滞在するまちをつくります。

○高い交通利便性や医療・健診機関の充実に加え、様々な体験や学びが身近にできる恵まれた環境を生かし、まちなかにある未利用地の利活用や居住の促進により、誰もが住み続けたいまちをつくります。

○製鉄のまちとして培ってきたシビックプライドや、主体的にまちづくりに取り組んできた地域・市民・企業の力をこれからも育み、サステナブルなまちづくりを推進します。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・八幡製鐵所とともに発展してきたまちの歴史、皿倉山、夜景、河内貯水池、環境未来都市づくり、祇園山笠、JICA 国際交流、世界遺産、ミュージアムパークなど、八幡東区にはユニークな強みがたくさんある。
- ・商店街や地域の活動が盛ん。八幡愛を持つ人が多い。八幡愛で溢れるまちにしたい。
- ・東田地区の大型商業施設に来た方をどのように循環させるかが大事。日本一の夜景を生かしながら、食などを絡めて宿泊へつなげていくなど。
- ・皿倉や河内の整備も非常に大事。豊かな自然を整備して観光資源とすべき。

6 八幡西区



八幡西区は、市の南西部に位置し、古くは江戸時代の長崎街道の頃より、交通の要衝として栄えてきました。全体的に平坦な地形で、良好な住環境が広く形成されており、市内において最も人口の多い区となっています。

日本を代表する有名企業が立地するとともに、中心市街地である黒崎地区や学園都市の折尾地区など、それぞれの地域ごとに特色あるまちづくりが進められています。

(1) 地域資源・ポテンシャル

①産業

先端ロボットや精密金型、素材、半導体材料などの分野において、世界をリードする企業が立地するとともに、それを支える関連企業群や金融機関、宿泊施設などが集積しています。近年は、物流需要の高まりなどから、九州縦貫自動車道の八幡インターチェンジがある金剛地区に物流拠点としての注目が集まっています。

②都市機能・住環境

交通の要衝として充実した道路網に加え、黒崎駅や折尾駅を中心に、鉄道やバスによる広域的な公共交通ネットワークが形成されています。

黒崎地区では、黒崎駅周辺に区役所をはじめとする公共的機関や文化交流施設、医療施設などがコンパクトに集積しています。商業施設の立地とあいまって、近年はマンションの建設が進み、まちなかの居住人口が増加しています。現在、交通アクセスの更なる向上に向け、国道3号黒崎バイパスの整備を進めています。

折尾地区では、大学や短期大学、高校などの教育機関が集積し、西日本有数の学園都市を形成しています。現在、折尾地区総合整備事業により、学園都市の玄関口にふさわしい地域拠点づくりが進んでいます。

陣原駅周辺や永犬丸・三ヶ森地区、八幡南地区では、鉄道駅周辺の利便性や生活利便施設の充実に加え、瀬板の森公園、金山川、遠賀川などの自然が身近にあり、暮らしやすい住宅地が広がっています。



③観光・歴史・文化

江戸時代には、長崎街道における黒崎宿と木屋瀬宿という2つの栄えた宿場町がありました。現在も、曲里の松並木や木屋瀬宿跡の古いまちなみなどが残されており、当時の風情を感じることができます。



また、400年前から行われているとされる黒崎祇園山笠などの多彩な祭りが地域に継承されています。

そのほか、石炭輸送に利用された堀川の流域には、水門「寿命（じめ）の唐戸」などの文化財が残っています。

④自然・食



藤の名所である吉祥寺、ホタルの飛翔地の黒川、地域の子もたちが水と触れ合える笹尾川水辺の楽校、森林浴のできる畑貯水池など、豊かな自然を身近に楽しむことができます。

また、遠賀川流域の水田地帯では、福岡県内で作られる米・麦の種子や酒造好適米など、高品質な農産物が作られています。

(2) まちづくりの方向性

- 産業の振興や雇用の創出により、活力あるまちをつくります。また、長崎街道などの歴史や伝統的な祭りの保存継承により、シビックプライドの醸成を図るとともに、豊かな自然や公園、貯水池などを生かした魅力のあるまちづくりを推進します。
- 黒崎地区では、都市型住宅の集積促進により居住人口の増加を図るとともに、多世代が交わり支え合うまちをつくります。また、個性的、特徴的な店舗の出店促進や賑わいづくりなどにより、歩いて楽しいまちなかを創出します。
- 折尾地区では、学園都市の特性と充実した都市機能を生かし、学生や若者、住民、駅利用者によるにぎわいづくり活動や民間開発を促進することにより、市内外の人々が住みたくなるような魅力的なまちをつくります。
- 筑豊電鉄沿線などの住宅地において、高い交通利便性や充実した生活利便施設、四季を彩る自然などを生かし、誰もが住みたくなる住環境ブランドエリアの形成を図ります。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・黒崎は交通が便利で、住むには素晴らしい場所。医療や介護、福祉の事業所が充実し、そこで多世代の交流が活発に行われている。
- ・折尾は再開発で住宅地としてのポテンシャルや価値が上がっていくのではないかと。一方で学生が多いまちなのに、学生が楽しめるような環境が整っていない。
- ・八幡西区は郷土愛が強く、まちをどうにかしないといけないと強く思う人が多い。
- ・祭りなどを通じて、子どもたちに自分のまちのことを好きだと言ってもらえるようにしたい。

7 戸畑区

戸畑区は、市内で最も面積が小さく、早くから都市基盤が整備されたコンパクトなまちです。北九州市のほぼ中央に位置し、区域の北側には工場が立ち並び、南側には住宅地が広がっています。

教育や文化、福祉などの都市機能が充実しており、「文教のまち」として、落ち着いた雰囲気のマちなみが形成されています。



(1) 地域資源・ポテンシャル

①産業

臨海部には広大な製鉄所を有する工場群が形成されており、これらの企業や区内の大学などでは、宇宙やDX、GX、半導体などに関する活動に取り組んでおり、未来産業の発展、社会課題の解決、バックアップ機能の強化に資する基盤が整っています。

②都市機能・地域

北九州市の中央に位置し、鉄道やバスによる公共交通網が整っていることから、市内のどの地域へもアクセスが容易です。若戸大橋と若戸トンネルにより若松区とつながり、北九州都市高速道路が小倉北区へと伸びています。現在、広域道路ネットワークの形成に向け、戸畑枝光線の整備を進めています。

戸畑駅や区役所周辺には、複合公共施設「ウェルとばた」のほか、病院や介護施設、保育所、障害者支援施設などが集積し、保健、医療、子育て、福祉のネットワークが形成されています。また、公害克服を先導した戸畑区婦人会の活動が脈々と受け継がれ、住民がまちの環境を守る風土が息づいており、住みやすい生活環境が整っています。

③教育・歴史・文化



九州工業大学や5つの高校など、多くの教育機関が集積しており、学生による地域活動も活発に行われています。

九州工業大学や明治学園を創設した企業家・安川敬一郎の邸宅である旧安川邸のほか、国指定重要文化財の旧松本家住宅や北九州市立美術館など、歴史・文化施設が数多くあり、多様な文化的魅力にあふれる文教のまちとなっています。



そのほか、浅生スポーツセンターなどの施設も充実しており、趣味、教養、娯楽を満喫できるエリアが多数あります。

例年7月には、国の重要無形民俗文化財に指定されている戸畑祇園大山笠行事が開催され、20万人以上の人々が観客に訪れる夏の風物詩となっています。平成28年(2016年)にはユネスコ無形文化遺産にも登録されました。

④自然

花と緑と水辺を生かしたまちづくりを進めており、市民の憩いの場として親しまれている夜宮公園では、四季折々に美しい花々を楽しむことができます。夜宮池や日本庭園には、約 7,000 株の花菖蒲が植えられており、花の季節には菖蒲まつりが開催されています。



都島展望公園や中央公園の金比羅山周辺には豊かな緑が広がっているほか、天籟寺川などの貴重な水辺空間もあります。ここでは戸畑あやめや鞘ヶ谷のホテルなど、地域に生息する動植物に身近に接することができます。

(2) まちづくりの方向性

○福祉と文教のまちの価値をさらに高め、多世代に魅力ある住環境の形成を図ります。

また、学生や若者の活動支援、居場所づくりなどに取り組み、若い世代や地域が活発に交流する活力のあるまちをつくります。

○歴史でつながる旧安川邸や旧松本邸とそのゆかりの学校を中心に、多様な主体の協働により、住んでいる人や訪れる人が歴史や文化の重みを体感できるような、回遊性の高い、緑豊かな街並みを創出します。

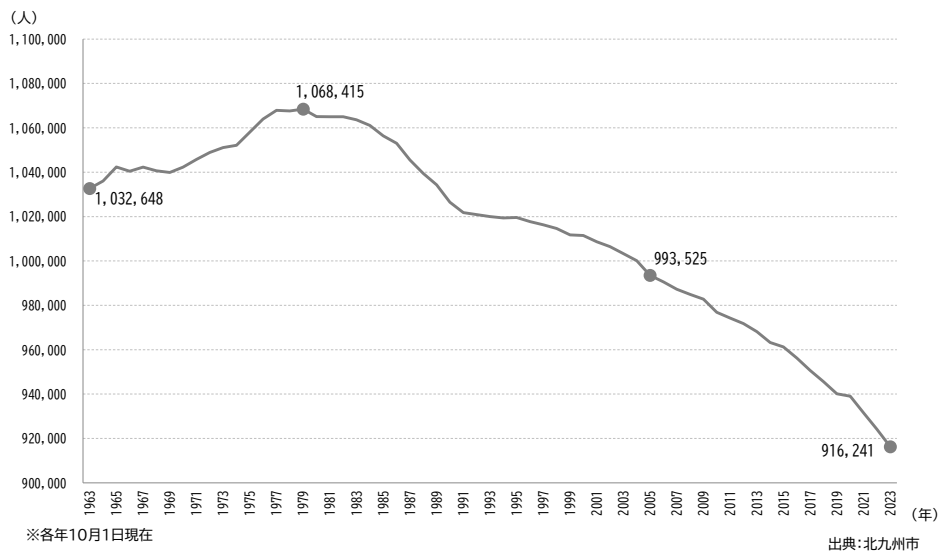
○世界に誇る戸畑祇園大山笠をはじめとする地域特有の文化や歴史、自然などを生かし、シビックプライドの醸成と賑わいの創出を図ります。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・教育と文化をしっかり育てたまちになればよい。
- ・戸畑区はとてもコンパクトで動きやすく、教育施設がとても充実している。これは子育て世帯が住むときにとても重視すること。
- ・戸畑の良さは人が温かいまちだということだと思う。地域の力が本当に強い。
- ・九州工業大学や明治学園、夜宮公園が一連の緑になっている。これはとても大事な環境。それぞれの管理主体が話し合っ、ここを結んでみんなで歩けるようにすると世界的にもアピールになる。
- ・学生が溜まれる場所がない。友達との交流の場がたくさん増えればいい。学生だけでなく、地域の人とも関われる、そんな場所があったら良い。
- ・商店街の空き店舗を使った交流の場づくりなど、高校生の力で戸畑が活性化できるような取組みをいろいろ考えている。地域の方や大人の方にも応援してほしい。

【参考】北九州市の人口の現状と将来見通し

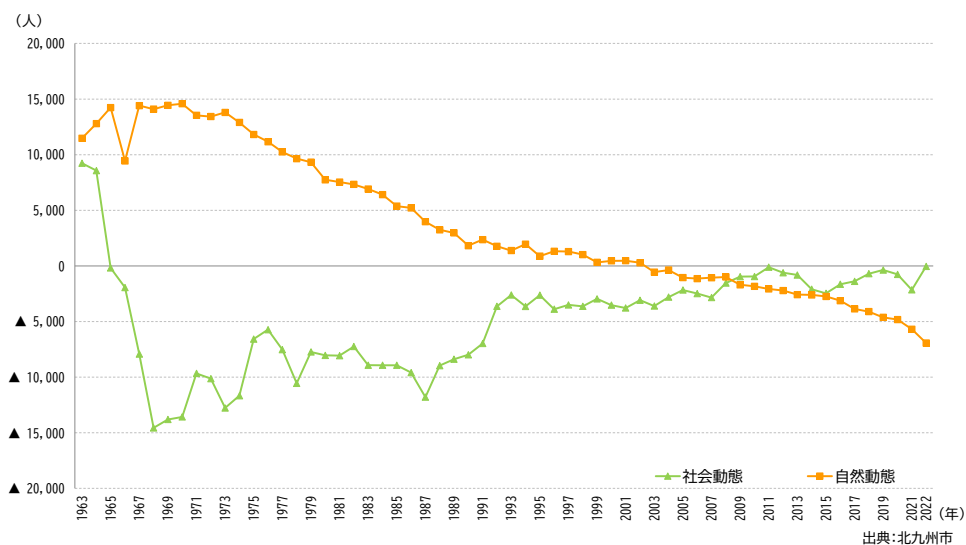
北九州市制が発足した昭和 38 年（1963 年）に 103 万 3 千人であった人口は、昭和 54 年（1979 年）の 106 万 8 千人をピークに、減少が続いており、平成 17 年（2005 年）には 100 万人を割り、令和 5 年（2023 年）10 月現在では、91 万 6 千人となっています。



北九州市の推計人口の推移

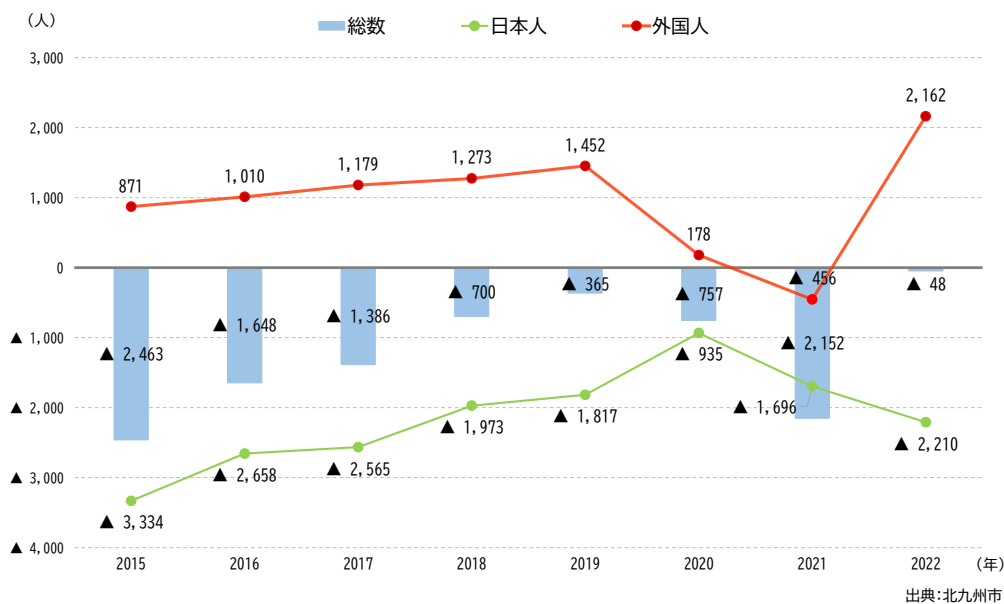
人口動態は、出生者数と死亡者数の差である「自然動態」と、転入者数と転出者数の差である「社会動態」の増減により影響を受けますが、高齢化率が政令市トップである北九州市の場合、高齢化のさらなる進展によって死亡者数が増加傾向にあり、自然動態のマイナス幅が年々拡大しています。

他方、社会動態については、過去に比べて「転出」超過のマイナス幅は改善傾向にありますが、昭和 40 年（1965 年）以降、「転出」超過の傾向は続いています。



北九州市の自然動態と社会動態の推移

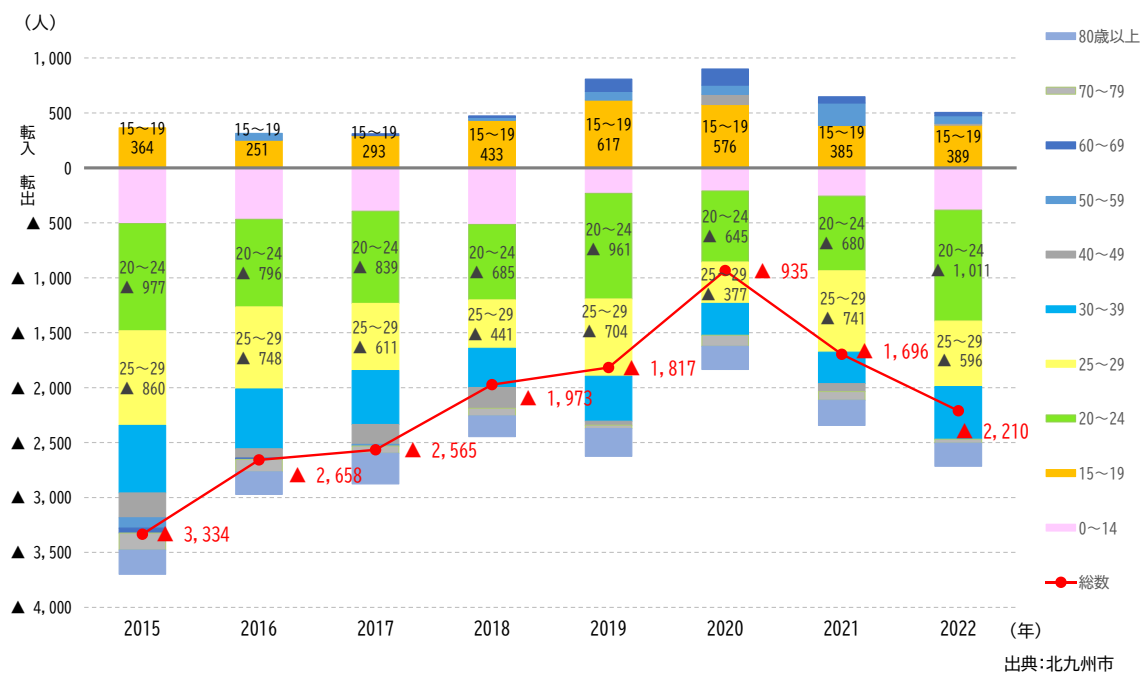
この「社会動態」について平成 27 年（2015 年）以降の状況を見てみると、外国人は転入超過、日本人は転出超過となっています。



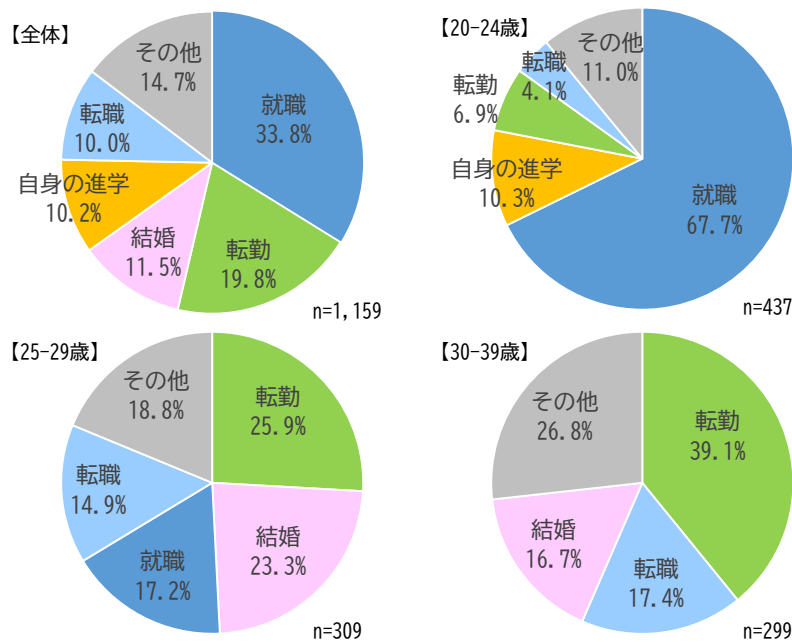
社会動態の推移（日本人・外国人）

転出超過が続く日本人の年代別の状況を見てみると、15～19 歳は、北九州市内に大学などの教育機関が多く所在することから、転入超過となっています。

他方で、20～24 歳、25～29 歳などの年齢は、大幅な転出超過となっており、市外転出者へのアンケート結果からも就職、転勤、結婚、転職などを契機に市外に転出していることが伺えます。



年代別の社会動態の推移（日本人）

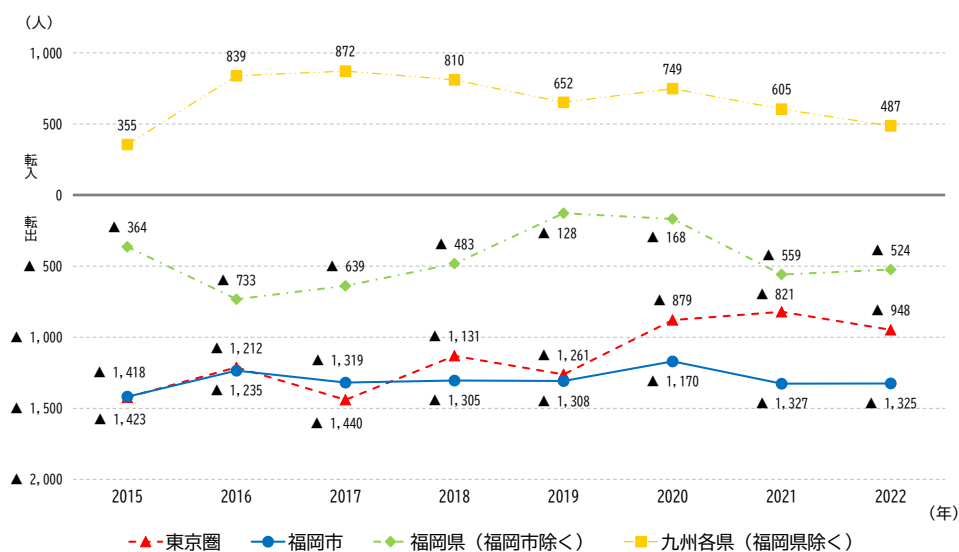


出典：北九州市「令和5年度 市外転出者（18～39歳）へのアンケート調査」

市外転出者（18～39歳）の転出のきっかけ

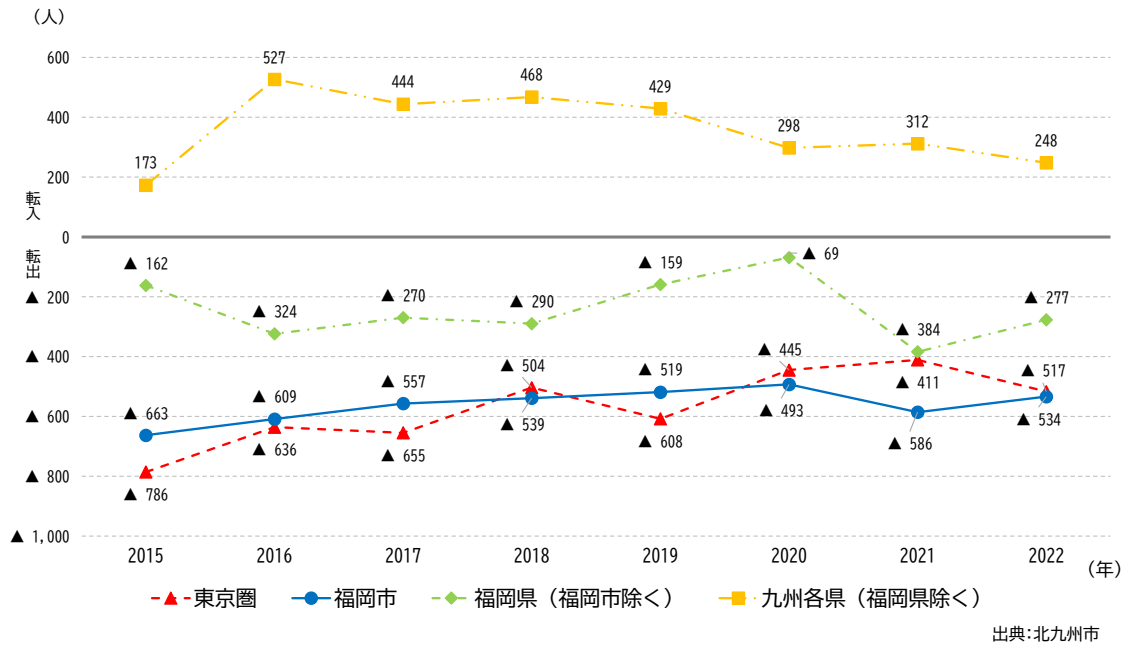
また、主な地域別の社会動態を見てみると、毎年の増減はあるものの、九州各県（福岡県を除く）からは、転入超過となっている一方で、福岡市、東京圏、福岡県内（福岡市を除く）には転出超過が続いています。

特に、福岡市への転出超過数は東京圏を上回っており、また、男性よりも女性の転出超過数が多くなっています。

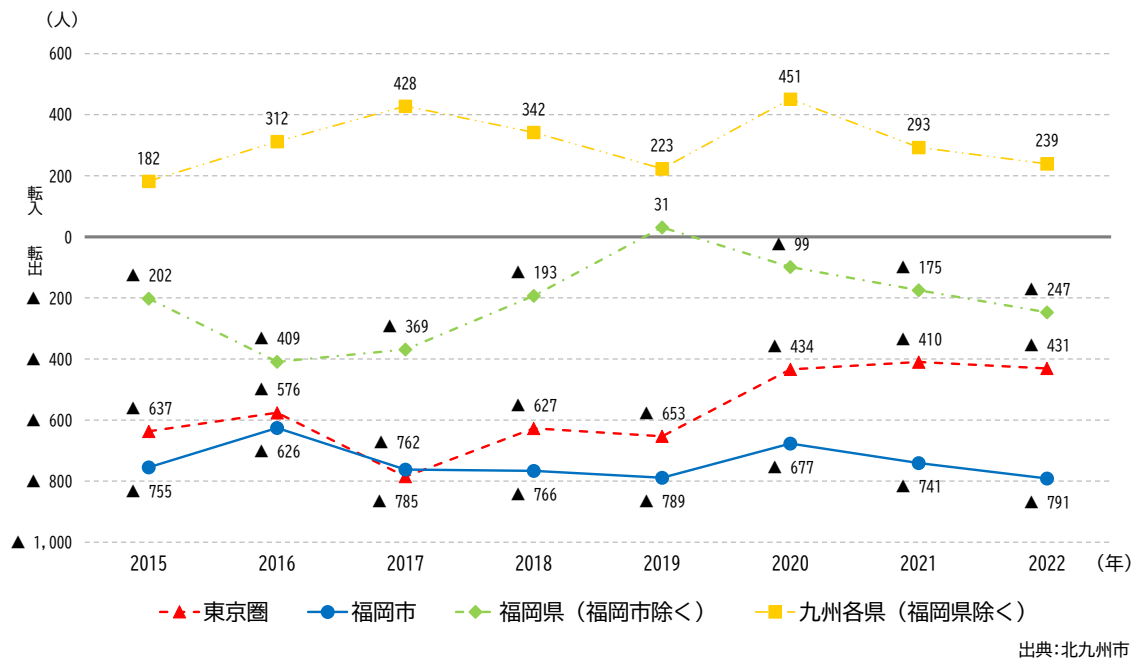


出典：北九州市

主な地域別の社会動態の推移（日本人）

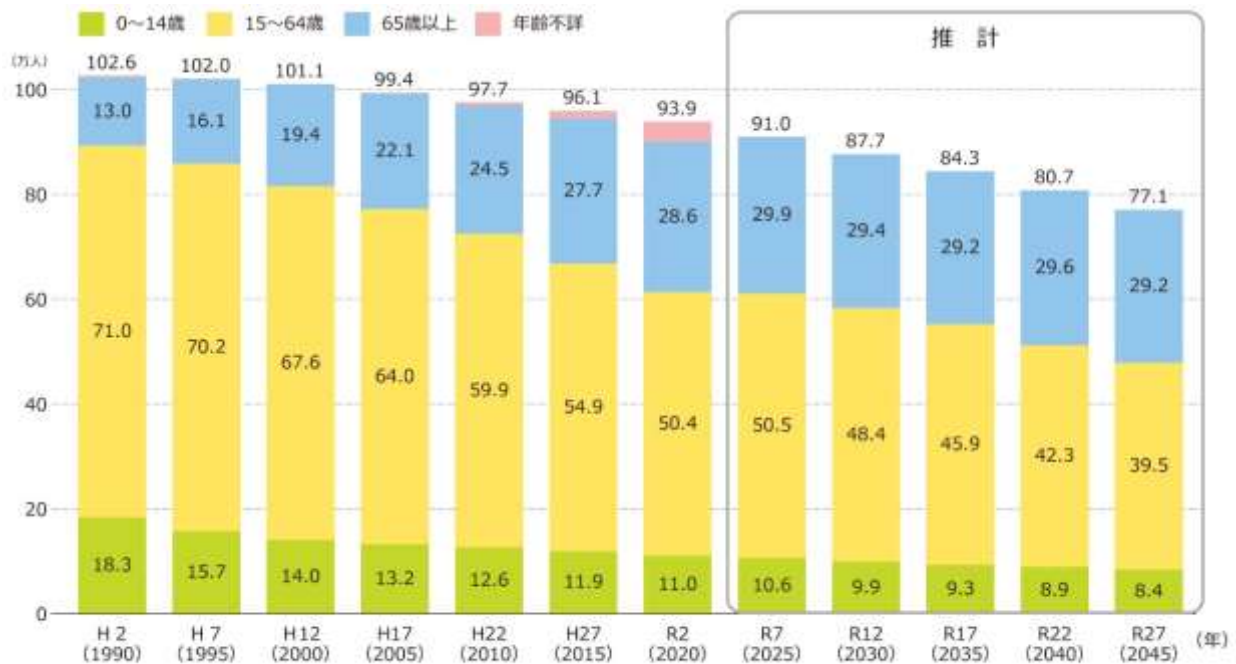


主な地域別の社会動態の推移（日本人：男性）



主な地域別の社会動態の推移（日本人：女性）

こうした現状のもと、平成 27 年（2015 年）の国勢調査の結果から国立社会保障・人口問題研究所が推計した、令和 22 年（2040 年）の北九州市の人口は 80 万 7 千人、生産年齢人口（15～64 歳）は、42 万 3 千人と推計されています。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」

北九州市の将来推計人口

【参考】これまでいただいた主な意見

1 未来に引き継ぐ北九州市の「宝」

(1) 人と人、地域との「つながり」

- ・地理的特性から北九州市民は他所から来た人や文化を受け入れることにとっても寛容で、そのことが日本経済をけん引する原動力の一つにもなっていた。
- ・官営八幡製鐵所が操業して以降、このまちには、全国から多くの人が集まってきた。こうした多種多様な背景を持つ人々が交じり合うことが、活力やエネルギーにつながった。
- ・小倉祇園太鼓や戸畑祇園大山笠をはじめとする地域の特色ある祭りや歴史的な文化、自然の大切さを、世代間で大事に引き継いできた。
- ・市民と地域で 30 年間取り組んできた地域福祉の三層構造のネットワークは、これからもまちづくりを支えるものである。

(2) 北九州市民の「情熱」

- ・北九州市民は、一見とっつきにくく見えるところはあるが、実際は人情に厚く、郷土愛（まちへの愛着）が強い。そうした気質が、困難に直面した時にみんなで一つになり、困難を乗り越える力の源になっている。
- ・産業近代化、戦後の高度成長期に国内外から多様な人々を柔軟に受け入れ、その人々の挑戦を助けたり、応援したりするパワーを持っていた。今もそのパワーは、北九州市民に根付いている。
- ・高度成長期の激甚な公害を産学官民の連携の力で克服し、その技術と経験が国内外で高く評価されて以降、北九州市は「環境のまち」として広く知られ、そのことはシビックプライドにもつながっている。

(3) ものづくり・環境のまちを支える「技術」

- ・筑豊炭田があり、石炭産業が栄えた都市で、門司港を起点として物流・人流結節点となっていた。官営八幡製鐵所をシンボルとして、産業近代化、戦後の高度成長を支えたものづくりの基盤は、これからのまちの発展に向けても、強みとして生かすべきである。
- ・産業近代化に伴う負の側面（公害）が出てきた北九州市では、世界的に環境問題への関心が高まっていなかった時代から、「ものづくりの技術」と「市民の意識」の両面からアプローチしてきた。
- ・早くから 3R（リユース、リデュース、リサイクル）といった環境問題を着想し、そのコンセプトを磨いて具体的な手を打ってきた先見性とスピード感がある。そして、環境国際協力にも、熱い思いで取り組んできた。

2 未来にチャレンジする「まちづくり」

(1) 北九州市の使命

- ・北九州市から日本を変える、世界を変えるというまちになってほしい。地域志向ではなく世界志向で、この地域が日本に、そして世界にどう貢献するのか、世界的なビジョンを持つまちになってほしい。
- ・日本全体が衰退国家になってきている今、北九州市が起爆剤になって、日本のリーダー的な役割を果たしてほしい。
- ・日本は課題先進国と言われているが、その中でも、北九州市が課題を先進的に解決していく都市を目指すことが望ましい。
- ・先進国はほぼすべて人口減少局面に入っているので、北九州市がリードし、住みやすいまちづくりを進め、都市型のモデルケースを作れば、世界に誇れるまちになる。
- ・北九州市を本気で変えていこう、発展させていこう、世界から注目されるまちにしようという一丸力が求められている。行政だけでなく民間も含め、人もお金も本気も出し合えば、大きなエネルギーとなる。

(2) 稼げるまち

- ・アジアの玄関口、九州と本州との結節点という地理的優位性と、24時間利用が可能な北九州空港をはじめとする、陸・海・空の全ての輸送モードに対応した交通物流インフラをさらに生かすことが、このまちの競争力や魅力を高める。
- ・北九州市は、北九州市のことだけを考えるのではなく、近隣の福岡市や下関市などと連携し、お互いの強みと弱みをうまく補完し合えるような発展の方向を目指してほしい。
- ・スタートアップなど若い人が挑戦しやすい環境づくりや、リ・スキリングなどにより、このまちの人々の「稼げる力」を強化してほしい。
- ・性別や年齢、障害の有無、国籍を問わず、きちんとキャリアを積み、適切に評価され、しっかり働ける環境を実現してほしい。
- ・アジアの現在の課題の多くは北九州市が乗り越えてきた課題であり、少子高齢化は将来のアジアの課題であることを踏まえ、高度な外国人材を受け入れることが、アジアの活力を取り込む交流につながる。
- ・災害が少なく、豊富な水資源やエネルギーがあるこのまちは、「バックアップ都市」として、日本の非常時に対応できるポテンシャルを生かして、若者に魅力あるIT関係などの企業誘致や物流産業などの集積をさらに推進してほしい。
- ・このまちの成長は、これからの成長分野と言われている「情報」「半導体」「新エネルギー」の3分野をはじめとする関連産業をどれだけ取り込めるかにかかっている。
- ・このまちが生き残っていくには、ものづくりのまちというDNAに、DXやGX、AIなど新たな技術を組み合わせ、生産性向上や高付加価値化に取り組まなければならない。

(3) 彩りあるまち

- ・快適で魅力的な都市空間の形成には、歩行者の視点に立った「ウォークブル」なまちづくりが重要である。また、自然と都会がコンパクトに集約されており、これらを融合させたまちづくりを推進してほしい。
- ・人々の価値観やライフスタイルが変わる中で、仕事だけでなく、文化芸術、スポーツに親しめ、上質なエンターテインメントを楽しめるような、多様な選択ができるまちであってほしい。
- ・素晴らしい観光地の本質的な魅力と価値を正しく届けることで、市内外から人を呼び込み、観光でも「稼げるまち」を目指してほしい。
- ・幼稚園から大学まで多様な選択肢があることが都市の強みである。国内外から人や企業を呼び込むには、グローバル人材やDX人材を育成する教育の提供や、インターナショナルスクールなどの誘致を検討すべきである。

(4) 安らぐまち

- ・自然災害がほとんどなく、暴力団排除により治安が改善されている。また、生活する上で、道路や水道といった社会インフラや公共交通機関が充実している。市民の暮らしのベースには、安全・安心が必要である。
- ・医療・介護の施設やサービスが充実しており、子どもから高齢者まで、また障害のある人も、安心して暮らすことができる。
- ・北九州市民すべてが、自分の尊厳を保ち、他者や社会とのつながりを感じるとともに、自身が属するコミュニティの中で幸福に暮らすことができるまちであってほしい。
- ・年齢や障害の有無に関わらず、人生を豊かに楽しめるよう、誰もが取り残されない、包摂性のある社会を目指してほしい。
- ・北九州市の健康寿命は全国平均を下回っているため、まずは健康寿命の引き上げを目標に、健康都市を前面に打ち出し、「シニアがいきいきと生活しやすいまち」を目指してほしい。
- ・フルタイム共働き世代の保育ニーズに応える環境を整え、性別を問わず、挑戦や活躍を後押しするまちであってほしい。
- ・常に子どもを真ん中において、子供たちがより伸び伸び生きることができる子どもの幸福度ナンバーワンのまちを目指してほしい。